
種

戯言遣いの弟子

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】 種

【Nコード】
N7194J

【作者名】
戲言遣いの弟子

【あらすじ】
この世の誰より終わりを想う男。
この世の誰よりも——を望む、少年。
この二人が出逢う時、世界は——

出逢い（前書き）

「こら、友。勝手に抜け出すな」

「えゝ。僕様ちゃん、暇なんだもん」

「五月蠅い」

「うおおおおおー!!」

「何だ!？」

「ファンでっす!」

「…友、お前の友達か?」「んゝん。知らない」

「いつくんのファン!」

「…僕?」

「よかったね、いゝちゃん!」

「よくない」

と言うことが有ったり無かったりで戯言遣いの弟子となったのです。

出逢い

「お兄さん。何を、してるの？」

「っ！？」

男は、気配無しに現れた少年に驚く。

しかし男は、

「種を…蒔いているんだ」と、少年に諭すように言う。

「種？」

少年は不思議がる。

それもその筈だ。

男は、“種を蒔く振りをしている”様にしか、見えなかったのだから。

「ああ。そうさ、種だ」

そこで男は楽しそうに、まるでそう望むように、笑い、言う。

「“災厄の種”を、な」

「え…？」

少年は、更に不思議がる。…と、男は思った。

現実はそうもいかない。

少年は笑い、

「じゃあ、《思うだけじゃダメだよ。想わなきゃ》」と。

「な…」

何を言っているのか。

男は思う。

…かくして悲劇は、

始まりを、

告げる。

出逢い（後書き）

…ぬぼ

…はっ！！

…ネテナンカイナイデスヨ

再会（前書き）

前編、後編です。

再会

「しっかし何だったんだ、アイツは…」
男は思う。

3日前、逢った少年の事を考える。

『思っただけじゃダメだよ。想わなきゃ』

「か…」

それから男は、

「まあ、いいさ。そんなものは全て…」

男は、

「戯言だ」

と、笑う。

そこから更に3日後

7月27日 土曜日

男は少年に…出逢う。

「…！」

「」

少年は、クスリと笑い、

「あ——、——悔——る——な——」

「え…？」

「あなたは、後悔する事になる」

少年は、臆気ながらも確実に、確実に、そう、言った。

そして、少年は男を、睨む。

「は！？」

前編、終。
続

番外編 理由（前書き）

男が災厄の種を蒔く理由です。

番外編 理由

「お前、何やってんだ?」「んー?特には何もー」

…僕は未だにコイツの性格が分からない。

出逢って7年目なのだが……………何なんだ…

「今は、パズルゲームと見せかけて、RPGだと思わせて、パズルゲームを作っているのデス。はい」

「…じゃあパズルゲームでいいだろうが」

「には」

「にはは、じゃねえ」

…本ツ当に分からない。

「と見せかけてRPGなのデス」

「知るかッ!」

「むー」

…何なんだッ…!

「…はあ」

「ため息つくと幸せが逃げるよ」

「誰のせいだと思つてやがる」

「さあ?」

「貴様じゃボケええッツツ!!」

「と見せかけて」

「黙れえッ!」

「みゅー…」

…しょんぼりしてやがる…僕の、せい?

…うー、いや確かにコイツのおかげでモテるようになったけどさー

(関係無い)

「キシヤヤヤヤー……ッツツツツ!……!」「ぐぼあッ!」

噛まれたッ!

ものすごい勢いで噛まれたッ!

「痛えぞ畜生！」

「キシヤヤヤヤー……ツツツツ……！！！！」 「痛ってえええ……！！！！ド畜生めえ！」

頭、凹んだ気がする……

でも、この平和は、ある日を境に、一転する。

「……おい、嘘だろ……なあ……」

大親友が、死んだ。
自殺だ。

「……もしかして、あの子じゃない？」

「あ……確かに、あの子、死んだ方がいいぞデメエ！って言ってたそうだよ……」

「あの子が……」

「殺した……」

この日から、僕は冤罪の殺人者になった。

こんな、

こんな……大親友が死んで……そして、僕が疑われるなんて……

こんな……

こんな……

こんな世の中……

滅んじまえ。

有難う（前書き）

…遂に最終回！

…短っ！

有難う

「ひっ…はあっはあっ…！何で…？」

掠れ声で男は喋る。

男は逃げる。

蜘蛛から逃げながら。

“人を食い、巨大化しながら追う” 蜘蛛から逃げながら。

「だから、言っただろ？後悔するって」

「う…五月蠅い…ひっ！」ずしゅっ

と、男は転ける。

男の目の前まで蜘蛛が迫る。

“一キ口先を三秒”で。

「い…いやだあ！」

男は泣き崩れた声で叫ぶ。すると、蜘蛛の動きは止まる。

「…え……………？」

「…ほら、やっぱり生きたいんだ」

少年は解らう。

「う…あ…？」

「…いや、活きたいのか…この世界で誰も。だあーれも。自分を必要としてくれない。そんな世の中、潰れてしまえ。と、思ったんだろ？…前に僕が言った言葉、覚えてる？…ほら、『思うだけじゃダメ。想わなくちゃ。』だよ。…あれの意味、解った？……………口、無いの？…アレはね、ただ壊れる。じゃなくて、自分も壊れなくちゃ。…って意味なんだ。解った？」

「……………ああ」

男は、消え入りそうな声で言う。

「おれはわかった…おれが、わかったんだ…」

「…うん」

「…いま、わかった。きみは…君は…」

「じゃあ、僕は消えるね」少年は微笑った。

「君は……！」

「さらば」

「“死神”……、なんだ……！」

少年は、……否。

死神は……消える。

「ッ……！」

「はなはゆはよさやさかあたやひわまかさはわかや」瞬間。
都会のざわめきが、蘇る。「……まさか……！」
そう。

今までの映像は、偽物だった。

「……はっ……！面白いこと、しゃがる……！」
そう。まさに。

“戯言”
だ。

「……そんじゃ、今度は……奇跡の種と……」
男は消える。

「未来の種を、蒔きますか……」

……

……

……

……

「ねえ、知ってる？」

「何々？」

「あの、“種”伝説！」

「知ってる知ってる！あの、種を蒔いてる人を見たら幸せになる
でしょ！」

「そうそう！……実はね、あたし、昨日見ちゃったの！」

「えー！いいなー！」

「でしょでしょ！でね、話しかけちゃった！」

「え！？…それで？」

「あのね、何をしているんですかって話しかけたね！」

「せいで、静羅、何ていわれたの？」

「するとね…」

「種を…蒔いているんだ。」

有難う（後書き）

…最後の静羅ちゃんは、次回の主人公です。

有難う！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7194j/>

種

2010年10月21日21時46分発行